

各 位

2005年 3月 31日

杏 林 製 薬 株 式 会 社  
東 洋 フ ァ ル マ ー 株 式 会 社

## 杏林製薬株式会社による東洋ファルマー株式会社の株式取得 (子会社化)について

杏林製薬株式会社(東京都 代表取締役社長：荻原郁夫)と東洋ファルマー株式会社(石川県 代表取締役社長：中山一)は、杏林製薬(株)が東洋ファルマー(株)の過半数の株式を取得し、子会社化することで合意いたしました。

当件につきましては、本日(3月31日)開催されました取締役会で決議され、本日、株式取得契約を締結いたしました。

### 記

#### 1. 株式取得の趣旨

医薬品業界におきましては、少子高齢化が加速度的に進展する中、医療保険財政は逼迫し、医療費・薬剤費の抑制策として、医療保険制度の改革等が行われております。

かかる環境下、杏林製薬(株)は、国内医療用医薬品市場におけるジェネリック医薬品の成長余地は大きく、また、社会的重要性は今後も増すと考えております。更に、杏林製薬(株)は、創薬ビジネスをコアとしていますが、ハイリスク・ハイリターンな事業モデルであるため安定成長を図るためには短いビジネスサイクルを有する事業を組み合わせることが重要であると判断しております。これらの点を踏まえ杏林製薬(株)は、このたび、ジェネリック医薬品事業を展開する東洋ファルマー(株)の株式の過半数を取得し、ジェネリック医薬品事業への足がかりをつかみ、健康貢献の新たな事業を構築することにいたしました。

一方、東洋ファルマー(株)は、杏林製薬(株)の有する研究開発力、営業力、資金力等の支援により、ジェネリック医薬品の拡大に向けた行政の追い風を更に受け、一層の業績拡大を図ることが可能と判断し、杏林グループの一員となることといたしました。

東洋ファルマー(株)は、1947年に設立以来、注射薬及び家庭用医薬品の製造販売を皮切りに、現在ではジェネリック医薬品の製造販売を主力事業としております。2004年には、製剤工場への設備投資を行い、生産能力及び製造受託の増強を図っており、ジェネリック医薬品事業分野では一定の地位を確保しております。

#### 2. 株式取得に関わる合意内容等

杏林製薬(株)は、以下の日程を目途に、東洋ファルマー(株)の発行済株式総数の50%超の株式を取得し、子会社化する予定です。

なお、杏林製薬(株)による東洋ファルマー(株)の株式取得は、東洋ファルマー(株)の現経営陣の同意を得ております。

株式取得の日程：2005年5月11日(株式譲受日)

### 3. 株式取得先の概要

東洋ファルマー（株）の主な内容は以下の通りです。

- (1) 商号 東洋ファルマー株式会社
- (2) 事業内容 医薬品の製造販売等
- (3) 設立年月 昭和22年10月
- (4) 本店所在地 石川県金沢市諸江町下丁287番地1
- (5) 代表者 中山 一
- (6) 資本金 5億4,284万円
- (7) 発行株式総数 4,867,600株
- (8) 株主資本 3,842百万円(2004年5月期)
- (9) 総資産 8,456百万円(2004年5月期)
- (10) 決算期 5月31日
- (11) 従業員数 205名
- (12) 主要取引先 医薬品販売会社
- (13) 主要取引銀行 北陸銀行、北國銀行、みずほ銀行
- (14) 杏林製薬(株)との関係 杏林製薬(株)製品に関し間接的な取引がありますが、資本的関係、人的関係はありません。

### 4. 東洋ファルマー（株）の最近事業年度における業績の動向

|      | 2003年5月期 | 2004年5月期 |
|------|----------|----------|
| 売上高  | 6,334百万円 | 6,419百万円 |
| 経常利益 | 257百万円   | 347百万円   |
| 当期利益 | 143百万円   | 202百万円   |
| 総資産  | 8,217百万円 | 8,456百万円 |
| 株主資本 | 3,648百万円 | 3,842百万円 |

### 5. その他

今後、杏林製薬(株)より東洋ファルマー（株）へ取締役等の派遣も検討しております。

### 6. 業績に与える影響

杏林製薬(株)による株式取得は来期になるため、杏林製薬(株)の2005年3月期の業績への影響はありません。

- 以上 -

<お問い合わせ先>

杏林製薬株式会社 経営企画部 東洋ファルマー株式会社 総務部  
TEL: 03-3293-3414 TEL: 076-239-2270